

全酪連会報 9

2018 SEP No.636

第69年度(平成30年度)
通常総会
開催される 後編

第47回
**全国酪農青年女性
酪農発表大会 ②**

酪農とのかけはし／
本田祥子さん

監査室だより／
内部監査の効用 後編

酪政連活動報告

酪農トピックス／
「30年度 北海道・都府県畜産主任者会議」
開催(札幌) ほか

日本酪農見て歩紀／
伴牧場 栃木県那須郡那珂川町



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

通常総会開催される

後編

本会は、7月26日(木)、TKPガーデンシティ品川(東京都港区高輪)において、第69年度通常総会を開催し、平成29年度の事業実績、剰余金処分案、第十一次中期事業計画案、平成30年度の事業計画案、回転出資金の増資振り向け等の承認を得るとともに、役員の改選を諮った。

午後1時00分、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った砂金甚太郎代表理事会長は、先般発生した西日本地域の豪雨により被害に遭われた会員・酪農家の皆様に対し、お見舞いと被災地の1日も早い復興への祈念の意を表した。また、会員並びに来賓各位の参集に対し、謝意を述べた。

続いて、酪農情勢について「酪農家戸数、乳牛頭数の減少が進む中、昨今は毎年のように酪農経営を直撃する自然災害が発生しており、予断を許さない状況が続いている。



砂金会長

また、海外の問題に目を向けると、米中貿易摩擦の影響が飼料価格にも及びつつあるほか、E.UとのEPAや、米国を除いた11カ国によるTPPの大筋合意など、酪農に



農水省 大野畜産部長

直結する貿易問題も多く、厳しい酪農環境に追い打ちをかけている状況である。

多くの酪農家が将来を不安視している中、全酪連としては経営意欲の減退を食い止め、次世代を担う後継者が、希望をもって経営継承できるような環境づくりが求められていると考えている。」とし、

続いて、本会の事業実績・事業計画に関して次のように述べた。

「今年度から始まる向こう三ヶ年については、「酪農生産環境の安定化」「酪農生産現場の生産性向上」「酪農生産物の販売強化」などを、基本施策の柱とした第十一次中期事業計画を新たに策定し、長期ビジョンにも掲げている酪農生産基盤の維持・拡大のために、会員・酪農家の期待と信頼に応えつつ、役

職員一丸となって事業に取り組む所存である。

また平成29年度的全酪連の実績については、皆様のご協力を賜り、税引前当期利益において、17億7千5百万円と、前年、計画ともに大きく上回る業績を達成することができた。これも会員・酪農家の皆様のご協力・ご支援の賜物であり、あらためて心より感謝申し上げます次第である。

この実績を受けて、今年度の剰余金処分においては、先行きの見通しづらい酪農情勢の中、会員・酪農家のために積極的に事業を展開していく必要がある、そのための組織体力強化策として、必要な内部留保を実施したいと考えている。

一方で、会員の皆様への還元も大変重要であると考え、事業分量配当



農林中央金庫 岩曾常務執行役員

通常総会開催される (後編)

については、例年の水準から増額することを考えている。」

そして最後に、会員・酪農家の皆様へ日頃の感謝を述べるとともに、引き続きのご支援をお願いし、開会の挨拶とした。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部・大野高志部長、農林中央金庫・岩曾聡常務執行役員をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人Jミルク、一般社団法人全国酪農協会等関係団体から多数のご臨席をいただいた。

そして、来賓挨拶の中で農林水産省生産局の大野畜産部長は、

「本日も参会の皆様におかれましては、平素より我が国の酪農の振興に多大なるご尽力を賜っており、厚く御礼申し上げます。また、一般の



東京都酪農協 平野組合長



北池新専務

西日本地域豪雨によって被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。酪農についても、生産現場あるいは生乳工場において甚大な被害を受け、生乳の廃棄も生じたと聞いているが、指定団体・あるいは全国連をはじめとした関係機関のご努力により事態の改善が進んでいるところである。そのような中、農林水産省では、先だって第一弾の支援対策を発表したところであり、関係団体と連携を取りながら、早期の復旧と経営の再開に尽力していきたいと考えている。

最近の情勢として、先日閉会した国会においてTPP11協定が承認され、また関連する法律案が成立したところである。昨年7月に大枠合意がなされた日EU・EPAについても先日7月17日に日本で署名式が

行われた。このように、我が国の酪農・畜産は、今後国際的な新たな局面を迎えることになる。日EU・EPAを受けて平成29年11月に改訂された「総合的なTPP等関連政策大綱」の中には、将来に渡って畜産経営に携わる方に、安心して希望をもって経営に取り組んでいただくために、加工原料乳生産者補給金制度などの経営安定対策、または畜産クラスターやチーズ対策などの体質強化対策の両輪でしっかりと対策を講じていくことなどを盛り込んでいる。



西村新常務

また、今年になって16年ぶりに乳用牛の頭数が増えたと報道されているが、やはり生乳生産の減少が気になるところであり、(一社)Jミルクの予想によれば平成29年度の729万tを今年は下回るとされている。そういった中で農林水産省



宗像新理事

畜産部では前述の体質強化対策と併せて、職員が全国の産地を回り、生産基盤を強化するために必要なこと・足りないことは何かなどについて、意見交換をさせていただいていくところであり、今後も力を入れて取り組んでいきたいと考えている。こういった中で全酪連においても、熊本県での若齢預託事業を始めとし、(一社)Jミルクの基金も活用した後継牛対策にも力を入れておられるところであり、農水省としても全酪連の取り組みと一丸となって生産基盤の強化に努めてまいりたいと考えている。引き続きのご支援、ご協力をお願いしたい。

最後に私事であるが、畜産部長を拝命して丸3年が経ち、明日27日に退職することとなった。全酪連にはこの3年間お世話になったことを御



安田新理事

礼申し上げるとともに、本日ご臨席の皆様のご健勝とご活躍、全酪連のご発展を祈念し、お祝いの言葉としたい。」と締めくくった。

また、農林中央金庫の岩曾常務執行役員は、挨拶に先立ち、

「先般の大阪南部地震及び西日本地区の豪雨により、甚大な被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。特に、西日本豪雨については中四国地方を中心に幹線道路の冠水や土砂崩れ、及び停電等により、心を込めて生産した生乳を廃棄せざるを得ず、いまだ生産ができていない、生乳工場の操業ができない、そういった事態に多くの方が遭われていると伺っている。本日ご臨席の皆様の中にも被災された方がいらっしゃるのではないかと思う。改めて心からお見舞いを申し上げます」とも

に、私ども農林中央金庫としても、でき得る限りのサポートをさせていただく所存である。1日も早い復興、復旧を心より祈念している。」とお見舞いの言葉を述べられた。

そして、総会開催へのお祝いの言葉とともに、農林中央金庫の日ごろの業務への理解・協力にお礼の言葉を述べられた後、酪農を取り巻く環境について、

「4月の畜安法の改正、貿易自由化の進展等、不透明さが増している中、平成29年度における国内の生乳生産量は、2年連続で前年度を下回った。一方、昨年に北海道の生乳生産量がプラスに転じて以降、国内全体での生乳生産量もプラスで推移しているが、都府県においては引き続き前年割れが続いており、大変厳しい状況であると認識している。」



杉浦新理事

としたうえで、

「このように酪農業界として都府県での酪農生産基盤の維持・強化が重要課題にある中で、貴連合会は福島県、熊本県での若齢牛預託施設の展開、北海道での販売預託事業の拡充を通じて、都府県の後継牛増加に貢献する取り組みを積極的に推進している。」

また、経営数値面についても中期事業計画の最終年度である平成29年度において、計画を大幅に上回る過去最高水準の業績を上げておられる。これも会員役職員の皆様のご努力並びに、砂金会長のリーダーシップの賜物であり、深く敬意を表したい。当金庫としても系統金融機関として、酪農協系統の振興に向けた金融対応はもとより、酪農関係団体の経済改善の取り組みの支援等、全面



岡田新理事

的に貴連合会の取り組みを支援させていただく所存である。

最後に、貴連合会並びに会員の皆様のますますのご発展と本日ご臨席の皆様のご健勝を記念し、挨拶とさせていただきます。」と述べられた。

この後、平野正延氏(東京酪農業協同組合代表理事組合長)を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認された。



大槻副会長

最後に、大槻副会長理事が

「年々厳しさが増している猛暑の影響は、牛にも人にも大きなダメージとなっている。牛舎環境を整備しながら、我々高齢者も含めて体に気を付けて頑張っていたきたいと思う。」

と閉会の挨拶を述べて、第69年度通常総会は終了した。

全国酪農青年女性 酪農発表大会②

先月号に続き今月号では7月19日(木)～20日(金)広島県広島市にて開催された第47回全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農意見・体験発表の部の審査講評を中心にご紹介します。

酪農意見・体験発表の部 審査講評



栗本 まさ子 審査委員長

をもって、地域の特徴を活かし、困難を乗り越え今日の経営を築いており、その発表内容はいずれも素晴らしい感動的で、色々な状況にある全国の酪農の皆さんに元気を出し、踏みとどまっていただくヒントにしていただけそうところが沢山あった。それでは、6名の方々の発表を振り返りたいと思う。

今回発表された6名の皆さんは、それぞれがたくましい努力と創造力



牛から人へ
「これからもお世話します!」

西日本酪農青年女性会議
かわもと けいこ
川本 恵子 さん

川本さんは早くから「女性もできることを対等に担う」という考えで酪農に取り組み、50代で息子さんに経営を移譲し、サポートするという理想的な家族経営を実践されている。

そして後継者育成にも力を入れ、

38年間で100名を超える若者を受け入れ、その後どのように酪農に関わっているか見守っていくことも大事な役割になっていくと思う。デーリーキッズサポート、酪農母と子会、酪農教育ファームと、地域の酪農及び地域社会全体のために幅広く取り組んでおられ、「困ったときはリバースファームに行ってみよう!」を目標にされているが、既にそうなっているのではないかと思われる。また販売にも取り組みたいという目標を持たれている。

すっかり離れてしまった生産と消費の距離をもう一度近づけるために

酪農意見・体験
発表の部

砂子田円佳さん(北海道会議)が

最優秀賞を受賞!!

名刺を持つ女性の皆さんの活躍は地域のみなならず日本の酪農にとって大きな力になるはずである。心から応援したい。



逃げるは恥だが役に立つ
～サラリーマンの経験を活かして～

東北酪農青年女性会議
しば こうたろう
柴田 耕太郎 さん

仙台市内から30分という立地は6次産業化の取組にとっても恵まれており、既に美術館、ソーセージ工房や飲食店、ワイナリー等とタイアップした行動を起こされ、慎重に、着々と前進しつつあり将来がとても楽しみです。

また、繁殖成績の向上と遺伝子改良を重要な課題として位置づけ、生産寿命が長く体細胞が少ない牛群づくりを目指し、少頭数で高収益を実現されようとしている。

ゲノム解析など、最新の技術を取り入れ、体外受精性判別技術を使っ

た肉用牛受精卵の移植、また地域の農家への販売等の取組は、柴田さんのチャレンジ精神あふれる優れたセンスをうかがわせてくれる。今後のビジョンである「末永く地域とともに発展する酪農家になる」ために頑張っていたきたい。また日本の酪農全体のためにのびのびと力を発揮される事を期待する。



200%の復興を
目指して

九州酪農青年女性会議
さかもと りゅういち
坂本 龍一 さん

熊本地震により、ご自宅や搾乳施設に甚大な被害を受けられ、奥様が体調を崩されるなど、大変辛い経験をされたが、周りの皆さんの助けや酪連の指導を力にして、また、給与方法の改善や搾乳施設の更新を通じて牛群管理技術を大きく向上させ、出荷乳量の増加や増収を実現された。さらに作業体

系の見直しを行い、労働時間を短縮し、定期的に休みがとれるゆとりある酪農経営を目指している。来年、若くして経営移譲の予定で、今後もしっかりとした経営計画のもとに外部の優れた知識や技術、機械を導入するなどさらなる経営改善を続けていかれることを期待する。

地震という大災難を家族の強い絆と柔軟な対応力、そしてたくましい経営努力で見事に乗り越えられた坂本さんご一家に敬意を表する。



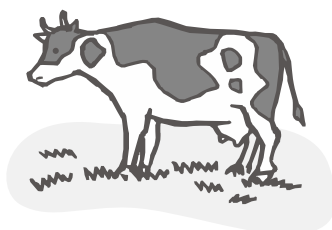
広尾町にマドリンあり！
～大きな架け橋でありたい～

北海道酪農青年女性会議
すなこた まどか
砂子田 円佳 さん

20歳でカナダに2年半酪農実習に行き、女性経営者の活躍を見て来られ、24歳で独立して一から牧場をスタートした。実家のヨーネ病の風評被害がある中で、地域の信頼を得るための大変さは想像に絶

するものだったと思うが、良き伴侶に巡り合い、僅か35歳で経産牛65頭、1頭当たり乳量12,000kgという盤石の経営を築かれたことは並大抵のことではなく、その努力と素質の素晴らしさを称えざるを得ない。

その一方で豊栄会広尾未来塾といった地域活動にも熱心に参加されるのみならず、SAKURA会という北海道全体の酪農女性の会、さらには全国的な酪農女性サミットを自ら企画され、酪農界の女性の活躍に大きく寄与する取り組みは、とても大きな意義があり、こうした活動がますます発展し、酪農女性の活躍しやすい環境づくりや社会的ステータスの向上につながっていくことが本当に楽しみである。





今日まで そしてkokoから

関東甲信越酪農青年女性会議
そのだ 園田 のり子 さん

保育士として酪農家に嫁ぎ、母親が亡くなられてからはご主人を助け精一杯酪農にかかわられてきたが、ご自身の病気の治療の帰りに寄ったカフェが生き方を変えてくれた。新しい価値観を発見された園田さんは、6次産業化に関心を持ち、その実現のために商工会のセミナーへの参加やケーキ教室での技術習得、日帰り温泉の厨房での2年間に及ぶ修行を経て、ついに地域の新鮮な農産物を使った「新鮮で安全、手作りにこだわる」をコンセプトにした癒しの空間としての「kokoから」の開業を実現。各方面から注目されていて地域の方も巻き込んで酪農の応援団を増やしている。

国際化が進むこれからの日本の酪農にとって応援団や理解者を増

やす事はとても大きな力になるはずである。大消費地に近い「kokoから」をどんどん広げていきたい。



走り続ける酪農をめざして ～生乳を使ったパン作り～

中部酪農 青年女性会議
くほ 貴光 さん

幼いころ病弱だった久保さんに栄養があり安全な食べ物を食べさせたいという思いから、自分で生産した生乳を使って自家製パンを作り食べさせてくださったお母さまが素晴らしいことに加え、お父様が「1人でできる酪農」を目標に余裕のある酪農経営を実現されたことも素晴らしいと思う。自家製パンは評判を呼び、弟さん2人も協力して「くぼちゃんパン」として広く販売し、今や経営の大きな柱となっている。一方良質な牛乳をパンに利用するため、農場HACCPの

取り組み、更にはJGAP認証も視野に、更なる良質生乳生産を目指している。生乳生産と製パンが車の両輪のように相互の経営を支えあい、発展している。今後またくさんの成果を挙げることを願ってやまない。

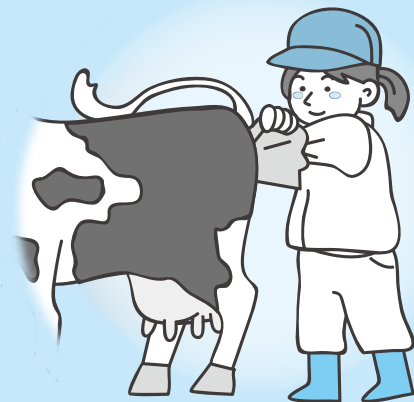
以上、6名の皆さんの発表は大変すばらしく、最優秀賞を1点選ぶという事は大変難しいが、審査基準の中の「酪農の振興に果たす役割」という点を特に考慮しました。これは「酪農家を元気にする力の大きさ」と言い換えてもよいと思う、酪農家さんを元気にするには女性がもっと元気になってのびのびと活躍すること、そのための取組を地域を超え全国の都府県にまで見事に広げている、砂子田円佳さんの発表を最優秀賞とした。

審査員一同、改めて発表者の皆さんに敬意を表し、審査講評とする。



来年は、7月11日(木)～12日(金)に鹿児島県鹿児島市「城山ホテル鹿児島」にて開催予定となっております。皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

酪農との かけはし



プロフィール

『獣医になりたい!』の一心で酪農学園大学に進んだ本田さん。経済動物を扱うことに興味を持ち始め、『治療して直すという行為は飼い主さんに喜んでもらえるのではないか。それが自分の遣り甲斐に繋が



▲ 本田 祥子さん

治療は畜主と一緒に

日中の多くの時間を家畜の診療にあたる本田さん。ものを言わない牛に代わって、畜主との会話を重視します。

『治療に当たっては、牛の症状だけでなく、それまでの管理方法なども具体的に聞き取りここに至った経緯を想像します。また、治療時に、水や飼料を摂取しやすくするか、牛床の安楽性を高めるなど、酪農家さんの献身的な看護によって、

治療に結びつくことがあります。』

『治療は当然大切なことですが、生産性が落ちた家畜はどこかで諦めなければいけないという場面も出てきます。それぞれの酪農家さんと同じレベルを意識してその方向に沿って考えていくこと、採算を見極めることは、ただ元気にさせればいいだけではない違う観点があります。』と語る本田さん。

酪農家さんの損を防ぐ損防課

本田さんは損防課に所属しています。当然治療も行いますがそれ以前に取り組みたいことがあると言

います。

『以前、分娩する度に第4胃変位を発症させる酪農家さんがいましたが、給与内容を伺ったら4変の原因がそこにありそうだと。現状をグラフ化して改善案を示したらその後発症がピタリと止んで。こういう時は私も嬉しいですし、遣り甲斐を感じますね。治療しながらデータを取



第15回 山形県農業共済組合 中央家畜診療所損防課 係長

酪農家さんの損を防ぐ損防課

ほんだ しょうこ
本田 祥子さん

略 歴: 神奈川県横浜市出身、3姉妹の次女。2006年酪農学園大学獣医学部卒。同年、山形県農業共済組合に就職。県職獣医師のご主人と家事を分担し、1男1女の子育て中。

本田 祥子さんの 1日のタイムスケジュール

8:00 ▶	娘を保育園へ
8:30 ▶	出勤
9:00 ▶	診療、種付けなど
12:00 ▶	昼休み
13:00 ▶	診療、種付けなど
15:30 ▶	診療所に戻り、 薬品の整理、 カルテや報告書の作成
17:45 ▶	退社
18:15 ▶	保育園へ娘の お迎え
	帰宅

全国の酪農家に一言！

我が家の子供たちは牛乳が大好き！1日1ℓ消費します。これからもおいしい牛乳をたくさん搾ってください！



り、「あなたの牛群はこの病気が多いですね、なぜでしょう」と一緒に考え数字やグラフで具体的事例を示し理解してもらいながら分かり易く進めるのがいいのかなど。会話を重ねることでお互いに気付くことがあると思います。獣医が治療メインではなく治療に至る前にアドバイスをする、酪農協や保健所などの関連機関と連携を取りながらアドバイスできるような体制も必要でしょう。治療をしてもまた発症すると言うのは

酪農の魅力

『実は、私も牛を飼ってみたいんです、経営ってことじゃなくて。たくさん乳を出すためにはどうするか、病気にならないような管理方法などを、実践してみたいですね。牛が喜んでくれて、同時に自分も儲かるためにはどうしたらいいのか考えながら牛を飼うってスゴイじゃないですか。ミルクの飲ませ方も酪農家さんによつて若干のオリジナリティがあつて違いますよね。子牛のその後にど

辛いですしね。治療してナンボという「診療課」から、病気を未然に防ぐ、酪農家さんの損を防ぐ「損防課」に変わってきています。酪農家さんにしてみれば獣医が暇な方がありがたい。私が呼ばれる時は酪農家さんにとっては良いことではない時に呼ばれていますよね。（笑）』



のような影響を与えているのか？、一番効率的な量や濃度はどこか？、なんて自分でやってみたいんです。牛を飼ったことが無い私に「先生はそう言うけど、こうなっちゃうんだよね」って私も気付かないことを

言って欲しいし、たくさんあると思います。教科書に書いてあることと、実践している酪農家さんの意見を尊重しながら、自分の中に取り入れて整理し活用して、皆さんの手助けになりたいですね。』



▲『牛乳大好き！』な颯介くん(8才)、雪乃ちゃん(5才)

内部監査の効用

後編

前回の監査室だよりでは、企業における「コーポレート・ガバナンス」や「内部統制」の重要性についてお伝えしました。企業の不祥事が今まで築き上げた企業価値を一瞬にして崩してしまう事例が相次いでいます。このような状況に、企業は不祥事を未然に防ごうと内部統制制度の構築に力を入れています。

企業における「内部統制」の重要度が高まるほど、「内部統制」がしっかりと機能しているか確認をする「内部監査」の重要性も同様に高まります。しかし一方で、「内部監査」の重要性については多くの人が納得されているものの、実態に関しては掴みきれている人はそれ程多くないように感じます。皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか？人によっては「内部監査」を文字通り、組織内部の監督と検査をすることだと考える人もいるかもしれません。しかし、これでは内部監査の一部分を理解したにすぎません。今回の監査室だよりでは内部監査についての概要を説明したうえで、その効果に

ついてお伝えしていきたいと思えます。

1 内部監査とは

そもそも内部監査とは何をどうすることなのでしょうか。それを紐解くためにまずは内部監査の定義から見ていきたいと思います。一般

社団法人日本内部監査協会の「内部監査基準」には、内部監査とは、「組織体の経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、合法性と合理性の観点から公正かつ独立の立場で、ガバナンス・プロセス、リスク・マネジメントおよびコントロールに関連する経営諸活動の遂行状況を、内部監査人としての規律遵守の態度をもって評価し、これに基づいて客観的意見を述べ、助言・勧告を行うアシュアランス（保証）業務、および特定の経営諸活動の支援を行うアドバイザリー（助言）業務である。」と定義されております。

簡単にこれを言い換えると、企業が発展をしていくため、第三者的な立場から、適切な支援を行うと

いうことになります。このようなことがなぜ行われる必要があるのかというと、これは内部監査の目的にもなりますが、企業の現状を把握し、経営管理の最大化に役立てるためです。

それは経営者の仕事ではないのかと思う人もいるかと思いますが。確かに経営者は企業のために様々な策を考え、実行に移しますが、これを全て確認するには時間的・能力的にも限界があります。また、人間でもある以上、完璧に企業の状況を正確に把握し、きつちりと判断し、適切な対応をすることは難しいです。そのため、内部監査では、独立した立場から様々な監査手法を用いて、実行された策が理想通りの結果になっているか確認をし、さらには経営者が気付かなかった課題を見つけ出し、ます。こうして内部監査は経営者の別の「目」となって経営の支援を行っています。

2 検査と監査

冒頭では内部監査について、組織内部の監督と検査をすることだと理

解している人もいると記述しましたが、実は内部監査では監督（指示）はしません。検査はどうかという、これも監査の一部を捉えたにすぎず正確に言い表しているとは言いません。では、検査と内部監査の違いとはどのような点があるのでしょうか。

共通部分は、現業部門から独立した組織として設置され、判断基準と突き合わせを行い、結果を報告するという点です。しかし大きく異なる点は、検査は業務の結果を対象としますが、内部監査は業務の結果に加えて業務のプロセスも対象となります。また、内部監査では判断基準となる社内規定や業務マニュアル等が現状と照らし合わせて問題がないか確認することも必要とされます。

3 内部監査のメリット

内部監査を実施することによりどのようなメリットが得られるのか、すでに前述しましたが、改めて経営者側と職員側に分けて具体的に説明をしたいと思います。

経営者

● 内部統制の有効性を確認することができる

目標（事業収益のみならず、顧客満足、法令遵守等も含めて）を達成するために、経営者が意図したとおりの事業運営が行われる必要があります。具体的には、計画を立て、実行をし、評価をし、改善を行う、いわゆるPDCAサイクルの確立と運用を監査することで経営の支援となります。

● 新しいリスクを洗い出しすることができる

前述した通り、いくら優秀な経営者であっても能力・時間的に全てに対応することは不可能です。そのため、内部監査によつて経営者が見つけられなかった課題について気づくことができます。

● ステークホルダーに説明責任を果たすことができる

前号の監査室だよりでは、ステークホルダーとは企業（組織）が事業活動を行う際に関わる様々な利害関係の相手方であり、農協組織であれば、出資者である生産

者や会員、農畜産物等の販売先や一般消費者、生産資材等の仕入先、そして自農協組織内で働く職員であると説明をしました。経営者はこれらステークホルダーの要求に対して適時適切に説明をする必要性があります。内部監査を通して、ステークホルダーへの「説明責任」を果たすことが可能になります。

職員

● 企業の方針やルールに違反していた場合、「気づき」の機会を与えてくれる

内部監査で誤り等を指摘されることは愉快なことではありませんが、大きな事故に繋がる可能性を考えれば、早めに対応できることはメリットだと考えられます。

両者

● 業務改善への取り組みを促す

内部監査では判断基準に関して、最良慣行（ベストプラクティス）と比べて適切かどうか判断することも目的としています。

以上のように、内部監査がただの『あら探し』ではなく、安定した企業活動を推し進めていくうえで不可欠な業務活動であるということが、多少なりともご理解をいただければ幸いです。

参考文献

- ① 「内部監査基準」
一般社団法人日本内部監査協会
http://www.iiajapan.com/pdf/guide/20140601_2.pdf
- ② 「図解 一番はじめに読む内部監査の本（第2版）」
（東洋経済新報社）
- ③ 「内部監査の現状と高度化への課題」
（日本銀行金融機構局金融高度化センター）
https://www.boj.or.jp/announcements/release_2015/data/rel150310b10.pdf

見て歩紀

No. 304

伴牧場

栃木県那須郡那珂川町

家族で楽しく
無理をしない酪農を

地域の紹介

今回訪問した伴牧場がある栃木県那須郡那珂川町は、栃木県の東北東に位置し、北部は大田原市、南部は

那須烏山市、西部はさくら市、東部は茨城県大子町、常陸大宮市と隣接しております。東西約22km、南北18・9kmと東西に長く、総面積は192・78km²で、県全体の3%を占めております。気候は、典型的な内陸型の気候であり、年間平均気温は、13℃前後で寒暖の差はあるものの年間を通じて比較的温暖な生活しやすい環境となっております。年間降水量は約1,300mm、初雪は12月下旬、終雪は3月上旬で積雪は年間5日前後となって

おります。町の中央を流れる那珂川は、関東でも有数の清流で、鮎釣りとしても非常に有名です。

栃木県那須郡那珂川町



▲ 息子の栄輝さん



▲ 第1牧場



牧場の概要

また、那珂川町の小砂地区は平成25年10月4日、「日本で最も美しい村」連合に栃木県内で初めて加盟しており、里山ならではの美しさ、伝統の技、芸術活動を中心に観光への活動も盛んです。

今回取材させていただいた伴牧場の家族構成は、栄之さん（55歳）、妻の恵子さん（53歳）、息子の栄輝さん（24歳）、父の栄郎さん（81歳）、母の



▲ 第2牧場

ヤエさん（81歳）の5人家族です。

伴牧場が所属している栃木県酪農業協同組合（石川正美代表理事組合長）は酪農家戸数192戸、生乳出荷数量70,300t（平成29年度累計）となっております。

伴牧場の歴史は栄之さんの祖父にあたります栄さんから始まりました。したがって、栄之さんで3代目、息子の栄輝さんで4代目と非常に歴史のある牧場です。当初は少ない頭数からのスタートでしたが、第1牧場の拡張（平成6年）や離農され空いていた牛舎を利用した第2牧場の開始（平成30年4月）などにより、現在は総頭数約75頭、うち経産牛62頭、育成牛9頭（預託利用有）、哺育牛4頭を飼養しております。

また、自給飼料を作付しており、酪農を始めた当初は約5haの面積を管理しておりました。しかし現在は、約10haの面積にデントコーン（地下サイロ、ロール）・イタリアンを作付しております。周りの酪農をやめられた方や高齢により管理が

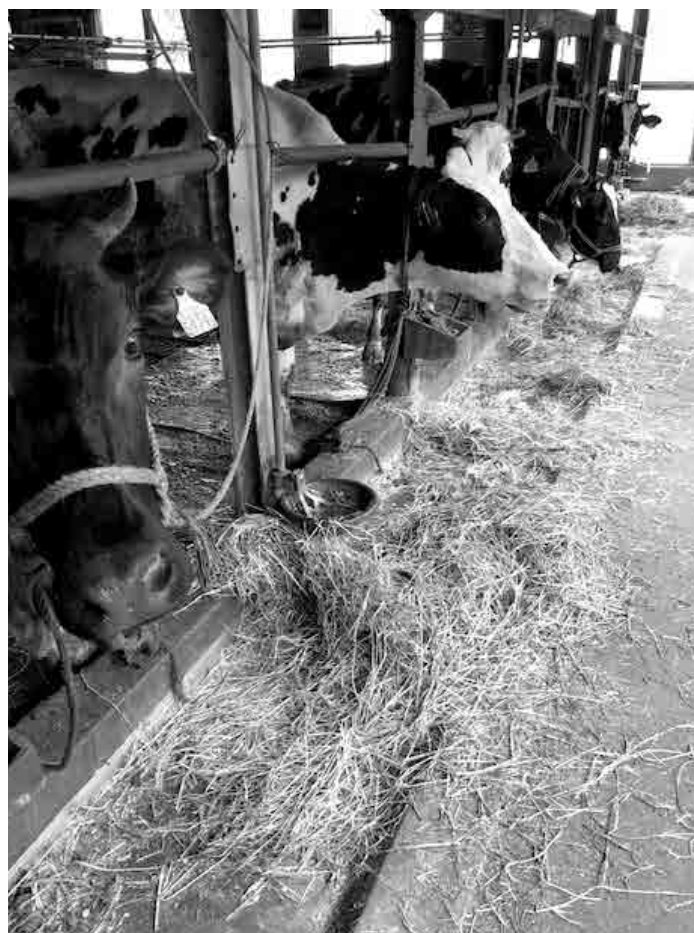
できなくなった方々の土地を利用し自給飼料を確保しております。

飼養状況

作業分担は、基本的に第1牧場を栄之さん、第2牧場を栄輝さんが管理しており、そこに父の栄郎さんや母のヤエさんがサポート役として作業をされております。しかし、第1・2牧場の朝の作業だけは栄之さん、栄輝さんの2人で作業を行っております。常に別管理で行わずこのように共同での作業の時間を作ることはお互いの認識の違いをなくすことや

牛の変化に気づくことに大きく影響してくるかと思います。

飼養頭数は前述した通りです。搾乳牛飼養内容は、主にデントコーン・サイレージ・イタリアン・サイレージ・指定配合粗飼料主体TMRとなっております。昨年中旬に共通銘柄配合から指定配合へ変更し、自給飼料の内容・牛群状態等により配合内容の調整を行えるようにしております。さらに昨年下半年にオーツハイから粗飼料主体TMRへ変更し、乾物摂取量向上・飼養内容の安定化等を図っております。酪農経営の向上を目指しています。



▲ 搾乳牛

経営方針

現在の経営方針として、大事にされていることが2つあるとのことでした。1つ目は、「長命連産」です。

栄之さんが牛舎に入って作業を行われるようになった当初は、多くの牛乳を搾ることを念頭において管理をしておりました。しかし、その影響により廃用にいたってしまう牛が多々でてしまっていたそうです。そのため現在は、多くの乳を搾って管理するという

ことではなく、牛に無理をさせない管理をし、長持ちさせることを意識しております。2つ目は、「家族でできる酪農」です。今年の4月に第2牧場をスタートしておりますが、あくまでも家族内で酪農が営めることを考えております。したがって、自給飼料に関しても

これ以上の面積を増やすのではなく良質な自給飼料を作っていくことを大事とされております。今後従業員を雇わなけれ

ばならない頭数を飼養していくのではなく、家族で管理できる範囲で酪農経営をし、安心安全の牛乳を生産していきたいとのことでした。

今後の展開

今年の4月に第2牧場がスタートし、息子の栄輝さんが管理するようになっております。栄輝さんは栃木県内の大学を卒業後、北海道は標津にある牧場で約1年間仕事をを行い、



▲ デントコーン畑

そして3年前に伴牧場にて作業を開始されました。現在、第2牧場にはまだ牛床に空きスペースがあります。しかし、第2牧場スタートから約5カ月ですが順調に牛舎内の搾乳スペースは埋まってきております。まずは、この第2牧場をフルに搾りきれることを目標に育成牛をしつかりと確保しながら酪農を行っていきたいとのことでした。そのためにも、経営の柱の1つである「長命連産」を今後も目指していきたいとのことでした。

終わりに

まず、この記事を作成するに当たり伴牧場の歴史や経営方針などを丁寧にお話しして頂き、大変感謝しております。

今回は、経営主である栄之さんに主に取材させていただきましたが、その中で息子の栄輝さんへの期待のお言葉がありました。近年、酪農家の高齢化や後継者不足が大きな懸念となっておりますが、伴牧場では息



▲ デントコーンラップサイレージ

子の栄輝さんが若手後継者として作業を行っております。現状の厳しい酪農情勢を全国の若手酪農家の力で打破し、今後の酪農業界を盛り上げていってほしいとのことでした。そしてまた、全酪連も酪農家のベストパートナーとしてそれを支えていきたいと思えます。

「長命連産」「家族でできる酪農」という2つの経営の芯をもち、日々家族で酪農を営まれている伴牧場の繁栄を心より祈念いたします。

札幌
支所発

「30年度 北海道・都府県畜産主任者会議」開催

8月3日(金)札幌市にて「30年度 北海道・都府県畜産主任者会議」が開催されました。この会議は道産初妊牛の購買動向と資源状況について意見交換を行う目的で毎年開催されており、今年は全国から乳牛購買担当者など72名が出席しました。

冒頭で札幌支所矢口支所長は、会議出席及び本会事業への協力に対するお礼と西日本豪雨被災者へのお見舞いに続き、「7月に大筋合意された日欧EPA交渉は、将来の酪農情勢への大きな影響が危惧される内容となった。また、ここ数年の天候不順や戸数の減少により今後の生乳生産への影響及び酪農基盤の脆弱化が懸念される。このような中、本会は、搾乳後継牛の確保、生体牛の取扱い強化を柱に、酪農生産基盤の維持拡大に取り組んで参ります。」と挨拶しました。

続いて購買生産指導部岡田部長は、本会畜産事業の説明に加えて、引き続き搾乳用素牛導入事業を柱に、預託事業等幅広い事業の展開・拡充により酪農家の労働力の低減と生産物の有利販売に努めたい、と事業への継続的な協力を呼びかけました。

次に会員組合からの概況説明及びアンケートに基づく質疑応答が行われました。都府県からは、相場高騰により北海道からの搾乳用素牛の導入が難しくなっていることを受けて、組合管内での初妊牛幹旋や性判別精液等への助成により後継牛の確保に取り組んでいるとの報告がありました。同時に、年々戸数が減少する中、組合主導のTMRセンターや預託施設の設立など、組合員の負担を減らし離農を食い止めるための様々な施策を実施していることが説明されました。一

方道内会員からは、大型施設の完成により初妊牛相場は横ばいが続くだろうといった見通しの他、市場での引き合いが強く分娩2か月前では資源確保が難しいことから、早めに注文をいただき優良後継牛を提供したいとの意見がありました。また北海道内でも離農を新規就農者でかばいきれない現実があり、農協主体の研修牧場についての取組みが紹介され、地域のコミュニティを守るためにも担い手の育成は農協の必須課題と捉えている、との説明がありました。この他にも府県でのメガファームの建設予定や猛暑の影響、初妊牛導入に関する防疫体制など、遠方地域の情報について活発に意見交換が行われました。

閉会にあたり挨拶に立った小湊保副会長は、「近年毎年減少していた乳牛頭数が今年はようやく増加に転じており、畜産クラスターや緊急支援対策等の事業、また性判別精液の効果的な使用によるものと感じている。乳量増産には乳牛の資源確保が第一であり、個々の酪農家が意識を持って後継牛確保に取り組む必要があるため、組合においては生産者への意識づけに取り組んでいただきたい。全酪連の事業においては生産現場の安定化が最大の焦点であり、中期事業計画に基づき会員・生産者に対して十分支援できる体制を作りながら進めてまいりたい。今後とも、事業に対してご協力とご支援をお願いしたい。」と会議を締めくくりました。

同日に行われた講演会では、独立行政法人家畜改良センターの佐分淳一乳用評価第一係長より、「我が国のゲノミック評価への取組について」の講演をいただき、参加者は熱心に聞き入っていました。(T.H)



▲ 岡田部長による畜産事業の説明



▲ 北海道と都府県担当者による意見交換

東京
支所発伊那酪農協「青年部厚生大会」、「組合員研修」
開催される

去る8月20日(月)に、伊那酪農業協同組合（長野県伊那市、小松平一代表理事組合長）の「青年部厚生大会」が、23日(木)に「組合員研修」が開催されました。

青年部厚生大会では、ボウリング大会と焼肉懇親会が催され、青年部（構成12名）と家族の合計23名が出席しました。子どもたちにとっては夏休み最後のよい思い出になったことだろうと思います。

組合員研修には27名が参加。マレットゴルフ大会の後、『乳質改善』講義（講師：赤羽秋平代表理事専務）が行われました。焼肉を食べ、大いに語らい、これから始まるトウモロコシの収穫に向けて英気を養いました。両日ともに大多数の組合員が出席したことから、親睦がより深まった組合行事となりました。

(N.T)



▲ 赤羽専務による乳質改善講義



▲ マレットゴルフ大会

◀ トウモロコシ収穫へ向け、
体力をつけた焼肉懇親会

▲ ストライク！スピア！ガター…



▲ 酪農の話や教育の話など、話は尽きず…

ロイヤル・ウィンターフェア視察と
米国・カナダ酪農視察研修 7日間

参加者募集

2018年度 全酪協会の海外酪農研修

アメリカ国旗 カナダ国旗

26回

ロイヤル・ウィンターフェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修 7日間

米国の酪農事情やカナダの大型牧場を知る絶好の機会。
ナイアガラの滝や、サンフランシスコも訪れます。

旅行期間 ※ロイヤル・ウィンターフェアの日程が未発表のため
出発日など変更になる可能性があります。

2018年11月7日(水)～13日(火)

企画・監修 一般社団法人 全国酪農協会 旅行企画 実施 JTB (株)JTB関東

※掲載写真はすべてイメージです。 ※撮影時の天候、交通などの諸条件により、実際とは異なる場合があります。

お問い合わせ

企画・監修

一般社団法人 全国酪農協会

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-36-4〈全理連ビル 3階〉

TEL : 03-3370-7213

FAX : 03-3370-3892

E-mail : ryokou@rakunou.org 〈担当:星野〉

全国酪農業協同組合連合会

総務部 組織対策課

〒108-0014

東京都港区芝4-17-5〈相鉄田町ビル〉

TEL : 03-5931-8003

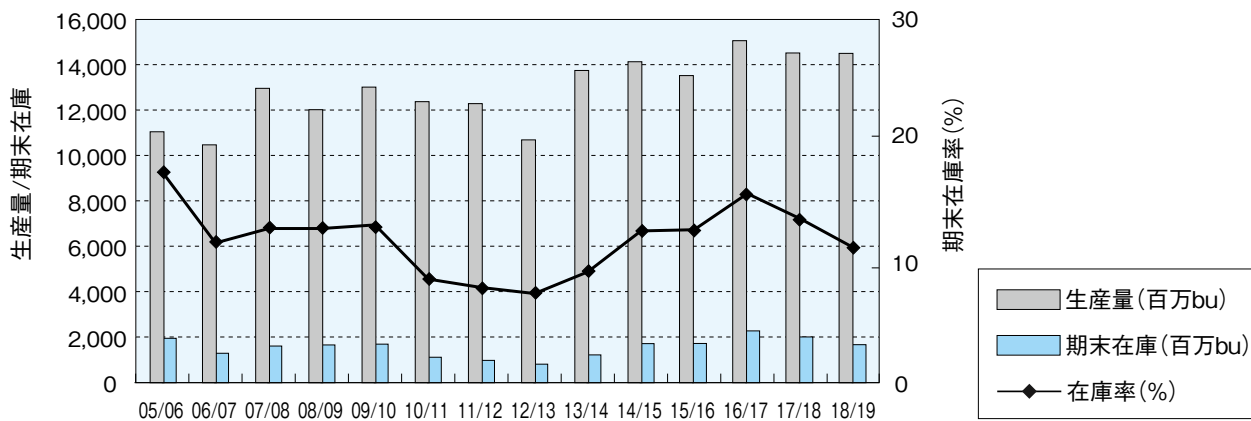
FAX : 03-5931-8020

E-mail : shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

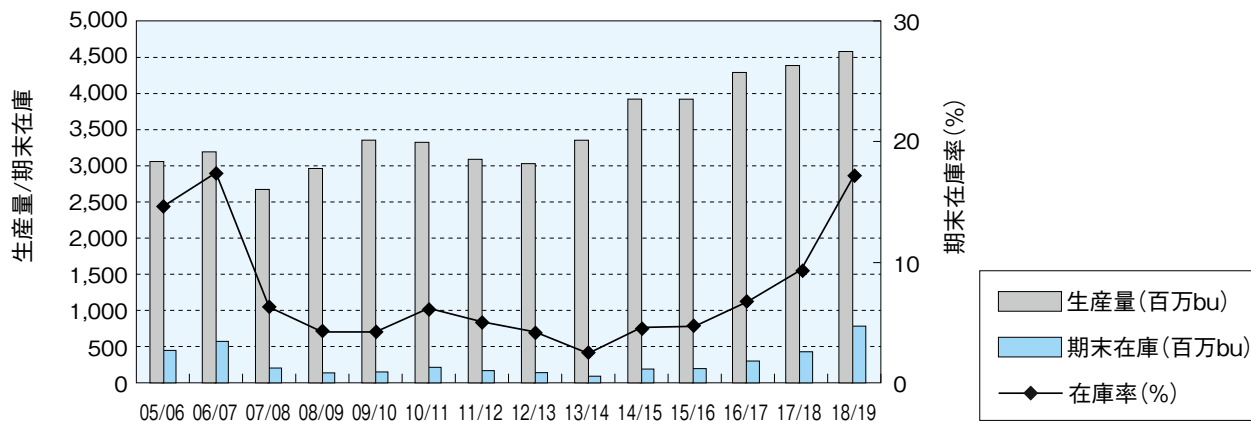


8月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		17/18年産	18/19年産
	作付面積(百万エーカー)	90.2	89.1
	単 収(ブッシェル/エーカー)	176.6	178.4
	生 産 量(ブッシェル)	146億400万	145億8,600万
	需 要 量(ブッシェル)	149億1,000万	149億8,000万
	期末在庫(ブッシェル)	20億2,700万	16億8,400万
	在 庫 率	13.6%	11.2%
トウモロコシ 相場動向	18/19年産米国産トウモロコシの発育状況は、変わらず順調。受粉期も既により越えており、今後大きな天候の崩れがない限り、豊作になると予想される。しかし、需給発表の単収の上げ幅はサプライズであったが、増加自体は予想に見込まれており、これで弱材料が出尽くした感もある。さらに相場が下がる可能性もあるが、未だ不透明な米中貿易戦争問題など強材料への注意が必要である。		
大豆粕相場動向	シカゴ定期市場では大豆・大豆粕ともに軟調に推移しているが、中国の大連市場の大豆粕相場は急騰している。8月に入り中国の米国産大豆の買い付けが確認された。中国は追加関税を支払ってでも大豆を手当てしなければならない状況であり、輸入大豆粕は強含みで推移している。		
槽糠類	【一般フスマ】 他原料からの置き換え、発生量の減少から引き合いは強まっており、かなり在庫が少なくなっている。欧州での干ばつの影響からシカゴ定期市場でも小麦価格が上昇しており、今後の動向に注意が必要である。		
	【グルテンフィード】 国産グルテンフィードは猛暑の影響もあり、清涼飲料水の出荷は好調。発生量も需給は適正で推移してる。		
海上運賃	パナマックス型市況は、横ばい推移となった。通常であれば"夏枯れ"と呼ばれ軟調に推移するが、大西洋水域を中心に引き合いが見られ、市況はサポートされた。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

平成30年8月

北米コンテナ船 フレート	先月号でもお伝えした通り、7月に入って各船社はGRI（海上運賃一斉値上げ）やE-BAF（緊急燃料調整費）の導入を決定しています。このため、8月中のGRIはごく一部の船社からのみの通知となっています。しかしながら、航路や船腹の調整が進むにつれ、海上運賃の修復を図る動きは、今後より活発になると予想されています。
ビートパルプ	【米国産】日本向け主産地のミネソタ州及びノースダコタ州では、当初予想よりも作付面積は減少していますが、生育期に適度な降雨もあり収量は概ね例年以上になる見込みです。収穫作業は8月中旬頃から開始される予定です。 新穀の価格は、米国内からの引き合いや世界的なビートパルプ相場が極めて堅調であることから、昨年に比べ大幅な上昇となる見込みです。
アルファルファ	【ワシントン州】主産地コロンビアベースンでは7月下旬までに2番刈が全域で終了しており、南部では8月初旬頃から3番刈の収穫が開始される見込みです。2番刈の作柄は降雨の被害がほとんどなく、日中も高温に至らず温暖な気候が続いたため、成分値の高い上級品が多く発生しているようです。1番刈では高成分の上級品が少なかったため、2番刈への需要が高まり、産地価格は1番刈と変わらず堅調に推移しています。
	【オレゴン州】南部クラマスフォールズでは7月中旬に1番刈が終了し、現在2番刈の収穫が進行中です。1番刈の作柄は、収穫期に断続的な降雨があり、約60-70%の圃場が降雨の影響を受けています。さらには、降雨を避け適期を逃したため、刈り遅れ品も発生しており、米国内酪農家と輸出業者双方から発生量が少ない高成分の良品への需要が集中し、産地価格は高騰しています。中部クリスマスバレーでも1番刈の収穫は終了しており、2番刈の収穫が開始されています。当地でもクラマスフォールズと同様に一部で降雨被害及び刈り遅れ品が発生しており、高成分・上級品は高値で取引されています。
	【カリフォルニア州】南部インベリアルバレーでは4番刈が終盤を迎えており、早い圃場では5番刈が始まっています。現地の日中の気温は100F（38℃）を超える日が続いているため低成分のものが多く生産されています。一部発生している成分が高めの玉は、サウジアラビアなどが積極的に買い付け、低成分のものについても、安定的な米国内酪農家の引き合いがあり、総じて産地相場は堅調に推移しています。カリフォルニア北部では2番刈の生産が終了しており、既に3番刈の収穫が始まっています。2番刈は例年に比べ、葉量が多く成分値が高い傾向のようです。このため州内の酪農家の引き合いが非常に強く、1番刈と同程度の価格で取引されています。作付面積も昨年より減少しており、価格上昇の要因となっています。
チモシー	【米国産】主産地のコロンビアベースンおよびエレンズバーグの1番刈は終了しており、早い圃場では2番刈の作業が始まっています。1番刈は6月中旬の降雨の影響で40～50%程度が何らかの降雨被害を受けており、降雨被害を免れたものについては刈り遅れ気味の品質が多く、茶葉の混入も目立っています。産地相場は、発生量が少ない上級品については昨年と同等レベルで推移しており、生産量が多い中～低級品については軟化傾向にあります。
	【カナダ産】南部レスブリッジ地区では、6月末から1番刈の収穫が始まりました。収穫期の天候が安定したことから7月下旬までに収穫作業は終了しています。冷涼な気候の影響を受け、昨年よりも収穫開始時期は遅れたものの、例年並みの期間で収穫を終えています。作柄については半数以上が上級品となっていますが、作柄が良かった昨年に比べ茶葉の混入はやや多めで品質は例年並みとなっているようです。産地相場については、韓国からの引き合いが引き続き強いことに加え、米国産チモシーの1番刈の相場が高値のまま推移していることから、昨年の同時期に比べ強含みで推移しています。 中部クレモナ地区では7月下旬から収穫作業が始まっています。生育期に当たる5～6月の降水量が例年の半分程度であったことから、生育のペースは非常に遅く、生産量の低下が懸念されます。
スーダングラス	7月15日付のインベリアルバレーにおける作付面積は前年同月比107%となっています。スーダン1番刈の収穫は遅播きも含めて終了し、2番刈の収穫も中盤を迎えています。1番刈の作柄は、昨年に比べて茎サイズにバラツキがあり、茶葉も例年よりも目立つ、中～低級品の発生が中心となっています。茎細の上級品においても茶葉が混入しているものが多く、茶葉の少ないクリーンな上級品の発生は、例年に比べて少なくなっています。2番刈についてはこれまでのところ、1番刈に比べ茶葉の混入は少なく、見た目は良化しているようですが、スーダン相場が低迷していることから生産農家は単収を追っているため、今後は茎太品の発生が多くなる可能性が高くなっています。産地相場については、茎細の上級品は色抜けの有無にかかわらず発生量が少ないことから、高値で取引されていますが、中～低級品については昨年に比べやや弱含みで推移しています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 7月15日付の作付面積は前年同月比122%となっています。現在、3番刈の収穫が進んでいますが、期間中、不安定な天候が予想されていたため、7～10日ほど収穫時期を遅らせた圃場が多かったことから、刈り遅れ傾向になることが懸念されます。また6月以降、例年よりも湿度が高い状態が続いているため、2番刈は良品の発生が中心ではあるものの、緑目がやや薄くブリーチが入ったものが散見されています。産地相場は、韓国から需要が鈍化することなく堅調であることから、昨年に比べ高値のままで推移している状況です。今後の相場は、引き続き韓国の需要動向に左右される展開と思われます。
ストロー類	18年産は、6月下旬からフェスキューストローやオーチャードストローなど一部のストロー類で収穫作業が始まり、その後、ペレニアルライグラスストローの収穫も開始されました。現在、ストロー類の収穫作業は順調に進んでおり、品質面では特に大きな問題は発生していないようです。
オーツヘイ	【豪州産】東豪州および南豪州においては、早魃の影響で豪州国内の畜産農家からの引き合いが強まっており、生産農家並びに各サプライヤーの余剰在庫のうち低級品を中心に相当量が豪州国内へ流れたとされています。このため、低級品の産地相場は高騰しています。上～中級品については、今のところ大きな変動要因はなさそうです。西豪州は播種時期から5月下旬まで降雨が少ない状況でしたが、それ以降はコンスタントに降雨があり、直近では例年以上の降水量が記録されています。このため、生育も順調に進んでおり、現在そのまま順調に生育が進めば例年並みかそれ以上の収量が期待されます。東豪州および南豪州においては、播種時期の降雨は十分であったものの、その後早魃状態が続いていることから生育にも影響が出ており、今後の天候次第ではあるものの、生産量は例年以下になると予想されています。

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

平成 30 年 7 月～ 8 月

7/30

正・副委員長会議(於:酪政連事務所)

- 平成 31 年度酪農政策・予算確保に関する要請についてを協議

7/31

三役会議を開催(於:砂防会館)

- 常任・中央合同委員会についてを協議

7/31

常任・中央合同委員会を開催 (於:自由民主会館)

- 平成 31 年度酪農政策・予算確保に関する要請についてを協議
その後要請活動を実施

自由民主党酪政会が開催される (於:自由民主会館)

- 酪農を巡る情勢についてが協議される
- 大槻委員長より、平成 31 年度酪農政策・予算確保に関する要請を実施

7/31



▲ 森会長の挨拶



▲ 大槻委員長の挨拶



▲ 大槻委員長より要請



乳牛産地情報

平成30年9月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▲……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	48~58	→	札幌管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計102.3%、累計で101.6%、苫小牧管内月計で99.9%、累計で101.2%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月~12月分娩、F1腹がメインで動くものと思われま。資源は例年並みと思われまますが、猛暑が落ち着いた都府県からの購買が入る可能性があり、相場はやや強含みと予測されま。雌雄選別腹の購買も可能ですが、お早目のご注文をお願いしま。育成牛につきましては、他の地域同様、横這いで推移するものと思われま。
	初妊牛	80~90	▲	
	経産牛	45~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	60~70	→	根釧管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.5%、累計で101.4%、中標津管内月計で101.1%、累計で101.7%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、12月分娩が中心となります。8月管内乳牛市場は道内の新規や規模拡大、道外のメガ・ギガファームの導入が活発となり、平均価格が更に上昇する結果となりました。今後はこの動きがさらに活発化する見込みがあるため相場はやや強含みで推移するものと予想されま。資源状況はF1腹・雌雄選別腹ともに例年と同様にご準備出来る状況にありますので購買ご希望予定の際は、都度お問い合わせ頂きたくお願い申し上げます。
	初妊牛	90~100	▲	
	経産牛	60~70	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	帯広管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.5%、累計で104.6%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月~12月分娩の腹が中心となります。これまで継続して初妊牛購買を行っていた道内外のメガ・ギガファームや、猛暑が落ち着いた都府県からの初妊牛購買が入ることが予想され、相場はやや強含みで動くものと思われま。初妊牛資源と致しましては、F1腹がメインとなり、雌雄選別腹も頭数は確保できるものと思われま。初妊牛の乳牛市場価格や庭先購買価格の高値維持を受け、頭数確保のために経産牛を求める動きも出てきており、こちらの相場も強含みで推移するものと思われま。
	初妊牛	88~98	▲	
	経産牛	55~65	▲	
道北管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	道北管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で100.1%、累計で100.7%、北見管内では月計で101.8%、累計で102.4%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月~12月分娩が中心となります。依然として導入需要が旺盛で、先月も市場相場は大きく下がりませんでした。今後相場が下がる要因はほとんどなく、横這いが牛によってはやや強含みで推移するものと思われま。雌雄選別腹、F1腹共に同程度の価格帯で推移しておりますが、大型牧場の導入と後継牛確保の面から雌雄選別腹については価格が高くなることも予想されま。
	初妊牛	83~88	→	
	経産牛	50~60	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	55~65	→	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は102.1%、累計で102.5%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月~12月分娩腹が中心となります。ここ数年、前年同月比120%~130%台で推移していた初妊牛価格ですが、今年度に入り105%前後で推移しております。また、昨年度は季節的要因による初妊牛価格の変動が殆どなく推移しましたが、今年度の夏場分娩腹においても高値維持で推移したことから、今後の秋口導入腹についても大幅な価格変動は無いものと思われま。今後の初妊牛の資源状況としては、市場における育成牛並びに初妊牛の上場頭数が前年を上回って推移していることから、前年並みに確保できるものと思われま。
	初妊牛	87~97	▲	
	経産牛	55~65	→	

今月の表紙

今月の表紙は、「第9回酪農いきいきフォトコンテスト」(第47回全国大会にて開催)で応募頂いた作品「同じ柄の娘達」(宮城県 玉根可奈氏 撮影)です。



編集後記

- 永遠に続くかと思われた暑さから秋の気配を感じられるようになってきましたが、まだまだ、猛暑が続きそうです。熱中症にはくれぐれもご注意ください。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

平成30年9月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 9月号 No.636

● 編集・発行人 戸辺誠司

● 発行 全国酪農協同組合連合会

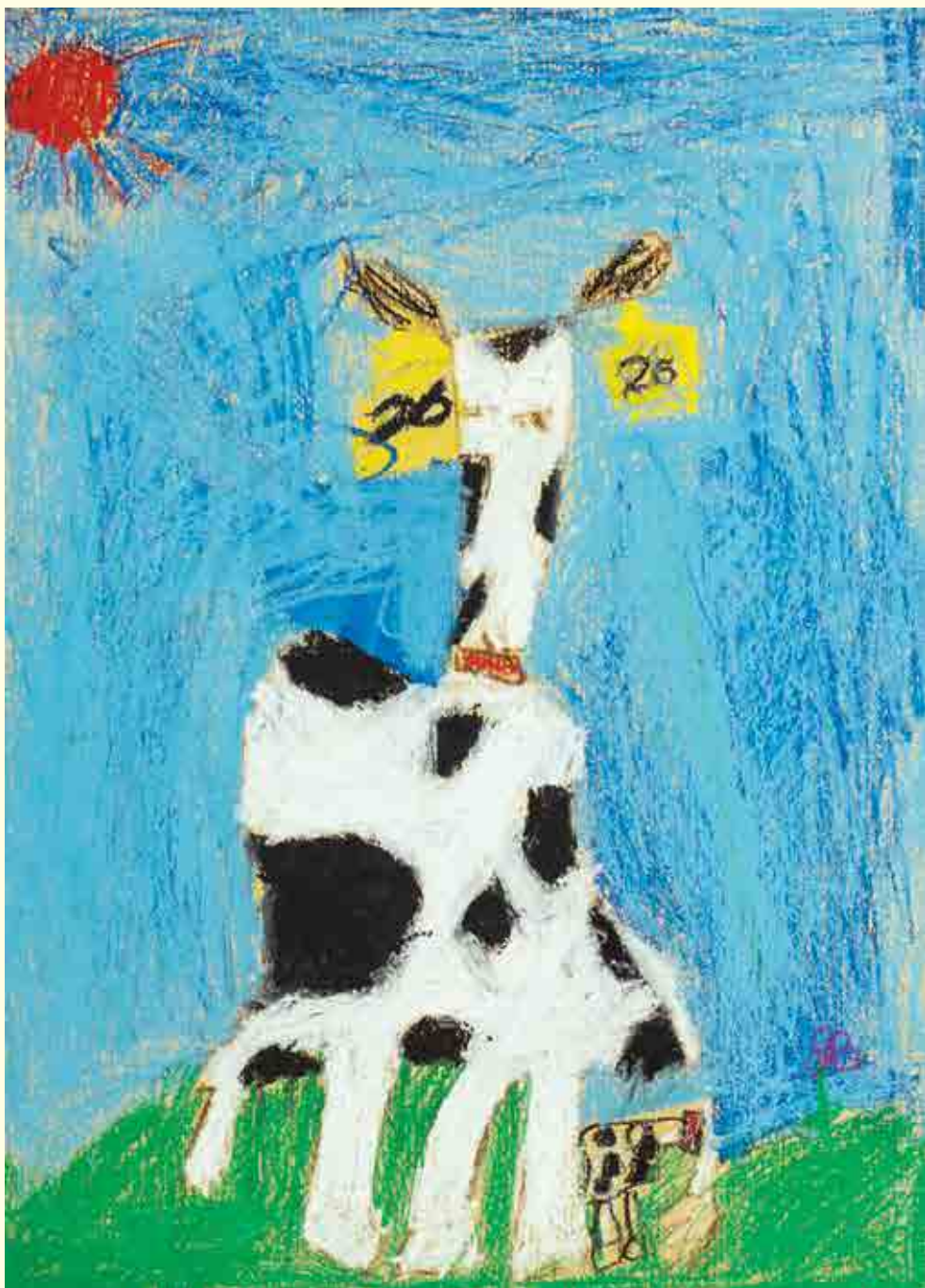
〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



うし

岡崎市立緑丘小学校(中部)1年 廣谷 優衣

今月の入賞作品は…

岡崎市立緑丘小学校(中部)1年の廣谷 優衣さんの作品です。

キリンさんのような長い顔がなんとも魅力的な牛さんです。背景は一見雑に見えますが、下地に濃い青を置き、上に明るい青を入れることで深みのある絵に仕上がってます。力強いクレヨンの線も元気よく、楽しさが伝わってきます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第45回らくのうこどもギャラリー」で全国833点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議